

科目名	助産学実習 I (Clinical Practice in Midwifery I)			科目コード	S117
単位数	3 単位	選択区分	必修	時間数	135時間
区分	助産学実践領域	履修時期	前期	関連DP	助①②③④⑥
担当教員	井上 明子、今村 朋子、伊藤 美香、瀧本 千紗				
実習目的	周産期ケアから女性の健康支援まで幅広く、リプロダクティブヘルス/ライツに関わる助産師としての役割を明確にする。また、1 例以上の分娩介助を実施し、マタニティサイクルの助産実践の基礎を学ぶとともに、助産学実習Ⅱの導入として位置づけ、今後に向けた課題を見出す。				
実習目標	1 正常な経過をたどる母子と家族に対する基本的な助産実践について理解できる。 2 女性の健康に関する援助の実際と助産師の役割について考察できる。 3 助産師像を明確に描くことができる。				

実習内容	
<p>1. 実習期間 3 週間</p> <p>2. 実習時間 原則として、8 : 00 ~ 16 : 00 とする 分娩期実習は24時間の待機制で行う</p> <p>3. 実習場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛媛県立中央病院 (総合周産期母子医療センター、産婦人科外来) ・松山赤十字病院 (成育医療センター：産婦人科病棟、産婦人科外来) ・四国中央病院 (産婦人科病棟、産婦人科外来) <p>4. 実習の展開 詳細は実習要綱を参照</p>	
成績評価方法	実習評価表 (100 点) の項目について、実習内容および到達度、実習態度を点数化し評価する。
教科書	主に助産診断技術学 I - IV、周産期ハイリスクケア論で用いた教科書を使用する。
参考図書等	適宜紹介する。
授業時間外の学習について	実習内容についての事前学習、事後学習、事例記録などの時間外学習を必要とする。
関連科目	103 周産期医学、104 新生児・乳幼児学、106-109 助産診断技術学 I ~ IV ⇒ 本科目 ⇒ 118 助産学実習Ⅱ
備考	